

中万 歴史散策

江戸時代に多くの豪商を輩出した中万は、今もなおその街並みを残しています。

21 乳熊寺



乳熊(ちくま)は中万(ちゅうま)の古い呼び名。言い伝えによれば、その昔、乳熊長彦という人物が百済に使いし、その功によりこの地を賜ったとある。昔は大寺であったという。天台宗所属。

22 中万町公会堂

中万の街並みの案内板が掲示されている。街並みを散策するには道が細いので、公会堂に駐車し徒歩にて散策を。



公会堂駐車場にある瓦



29 聖徳寺

浄土宗所属の寺院。太子山慈眼院と号す。創立以来度々の兵火や火災に見舞われたが、文政3年(1820)現在の建物が再建された。寺宝とされる聖徳太子像は室町期の作とされる。また寺墓には「鬼の墓」もあり、中万市を舞台とした伝説も残されている。



23 富山家
家の玄関は東端の小路に入った中程にあり、川と道を等しく意識した建て方になっている。



26 竹口家
「ちくま味噌」などの製品で知られる豪商の邸宅。屋敷門などに当時の姿をとどめている。忠臣蔵や勝海舟との関係は有名。



28 心光寺
浄土宗所属の寺院。護念院天王山と号し、ご本尊阿彌陀如来座像は鎌倉時代の作と伝わっている。ちくま味噌竹口家の菩提寺。境内には地藏堂があり、文政8年(1825)作の地藏がまつられている。



射和・中万の歴史散策

IZAWA & CHUMA History walk

もうひとつの「豪商のまち松阪」へ



発行 / 一般社団法人 松阪市観光協会
〒515-0017 三重県松阪市京町507-2
TEL 0598-26-2822

松阪駅観光情報センター
1階情報センターでは、観光のご案内を行っています。
場所は、JR松阪駅を出てすぐ右側、交番横にございます。
お気軽にお立ち寄りください。

〒515-0017 三重県松阪市京町507-2
●案内時間 / 午前9時から午後6時
●休館日 / 年末年始
TEL 0598-23-7771 FAX 0598-26-4778
<https://www.matsusaka-kanko.com>



射和 歴史散策

IZAWA History walk



もうひとつの豪商のまち 射和と中万

松阪市の南郊、櫛田川の中流に、伊勢商人発祥の地といわれる射和・中万地区があります。室町時代に櫛田川上流の丹生で産出される水銀で財を蓄えた人々は、江戸時代にいち早く江戸へ進出して、呉服や味噌、醤油などを商ったり両替商を営んで、江戸屈指の豪商に数えられました。宝暦13年の「新撰道中細見記」には相可の部で「町の左は大川有川向を射和と云也 よき家居多し 江戸の竹川・富山が本家此所にあり(後略)」と、射和の一見を進めています。

丹生の水銀と伊勢白粉(射和軽粉)

勢和丹生の丹砂(水銀鉱石)は古代から知られ、顔料や防腐剤、薬、金メッキの触媒として利用されていました。中世以来、射和では、水銀から作られた「伊勢白粉(射和軽粉)」で財を築き、繁栄を極めました。さらに伊勢神宮の御師が土産として各地に配ったことで、伊勢白粉として全国に広まり、この地域に富と豪商の発展をもたらしました。伊勢白粉は昭和28年に製造を止め、丹生の水銀も昭和48年に採掘中止となり、その長い歴史に終止符を打ちました。

至多気町 御麻生園豊原線(みよそのとよはらせん) 701

夏の風物詩 射和祇園祭り

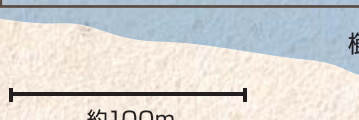


元禄時代(1690年頃)から盛んになり、悪霊を鎮める祭りで、現在は7月中旬の土日に行われる。大小12台の屋台と2基の神輿で繰り広げられる祭りは幻想的な世界へ誘います。(県無形文化財指定)

5 延命寺 山門(竹川家の墓)



山門は和様の伝統的な手法を見せる四脚門で、市内最古の建物。寺は浄土宗寺院、現本堂は然譽意察上人が住職を勤めた正保4年(1647)から寛文8年(1668)までの間に再建されている。竹川家の菩提寺で墓がある。石垣には櫛田川が増水時に水害を防ぐための防水材を差し込むあともある。(県有形文化財指定)



6 伊顔寺(富山家の墓)



浄土宗で延命寺と並立しており、山門を櫛田川岸にあげ、高い石垣を築いている。延宝8年建立の本堂など歴史は古い。



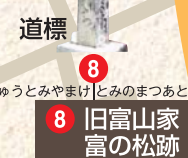
4 清水地蔵



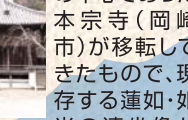
3 延命寺と伊顔寺に続く道



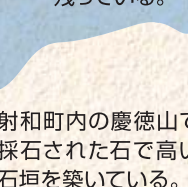
7 本宗寺(三井家の墓)



三河一向一揆の中心であった本宗寺(岡崎市)が移転してきたもので、現存する蓮如・如光の蓮坐像が残っている。



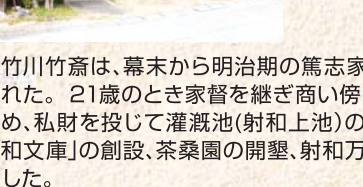
8 旧富山家 富の松跡



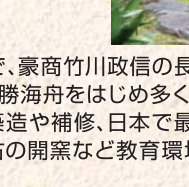
1 竹川家(射和文庫)と竹川竹斎



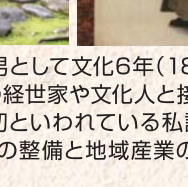
2 国分家(本宅・新宅)



14 新出道分地蔵

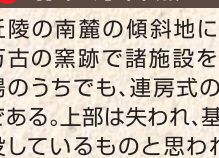


16 大日堂(旧射和寺)跡

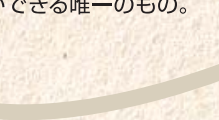


木造地藏菩薩は、右手に錫杖(しゃくじょう)、左手に如意宝珠を持つ通常の地藏像。額部の白毫は水晶、目は玉眼、円満相でほのかな笑みの漂う庶民的な顔立ちである。

9 射和万古窯址



丘陵の南麓の傾斜地にある射和万古の窯跡で諸施設を備えた窯場のうちでも、連房式の本窯部分である。上部は失われ、基底部が埋没しているものと思われ、小面積ながらも原形が推定できる。現在、射和小学校の隣接地になっており、射和万古操業時の施設として確認ができる唯一のもの。



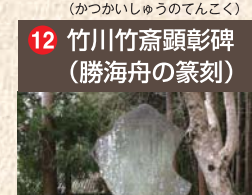
11 竹川竹斎翁之碑



竹川家の墓所は、射和の町並みを南側に一望する標高約32メートルの丘陵の一角に設けられている。竹斎の墓碑は南面した墓所の中央にあり、周囲には竹川家代々の墓石が並んでいる。竹斎は、明治15年(1882)11月1日に74才で亡くなる。



12 竹川竹斎顕彰碑(勝海舟の篆刻)

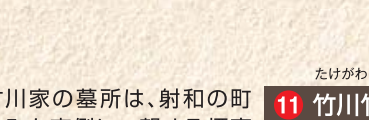


竹川家の墓所は、射和の町並みを南側に一望する標高約32メートルの丘陵の一角に設けられている。竹斎の墓碑は南面した墓所の中央にあり、周囲には竹川家代々の墓石が並んでいる。竹斎は、明治15年(1882)11月1日に74才で亡くなる。



13 射和共同墓地 大定三千風の墓

芭蕉と雁行する俳人で寛永16年(1639)射和の商家の生まれで本姓は三井氏、大淀氏を称す。行脚俳人として著名であり、行脚の行程は松尾芭蕉も遠くおよばない。晩年は宝永2年(1705)に故郷に帰り、同4年、69歳で没した。墓は射和町共同墓地にあり、正面に「友翰法師」、左側面に「三井氏」、右側面に「宝永四丁亥正月八日」の文字を刻む。



19 伊佐和神社



合祀、遷座など多様な歴史を歩んできた神社。元々は産土八王子(上社)と産土牛頭天王(下社)の2社が1村の中に鎮座。明治時代に上社を射和神社(いざわじんじゃ)と下社を八重垣神社に社名変更、さらに合祀政策に基づき下社のところに上社が合祀された。



18 行者祠



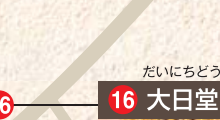
竹川家の墓所は、射和の町並みを南側に一望する標高約32メートルの丘陵の一角に設けられている。竹斎の墓碑は南面した墓所の中央にあり、周囲には竹川家代々の墓石が並んでいる。竹斎は、明治15年(1882)11月1日に74才で亡くなる。



17 経金塔



射和の地に危機が訪れた際に「ここを掘れ」との言い伝えがある。



20 蓮生寺



境内の真盛上人の供養碑1基、墓地内の宝篋印塔2基と板碑1基、計4基が石塔群として市有形文化財に指定され、内3基に造立年次の銘がある。



竹川竹斎は、幕末から明治期の篤志家で、豪商竹川政信の長男として文化6年(1809)に生まれた。21歳のとき家督を継ぎ商い傍ら勝海舟をはじめ多くの経世家や文化人と接し知識を深め、私財を投じて灌漑池(射和上池)の築造や補修、日本で最初といわれている私設図書館「射和文庫」の創設、茶桑園の開墾、射和万古の開業など教育環境の整備と地域産業の振興に尽力した。

約100m